

Re live Journal

りらいぶ ジャーナル

平成24年 晩秋号

(11月26日発行)

ニュースレター版6号

<りらいぶ憲章>

- 組織、肩書き、経歷にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を
“りらいぶ”と呼び、その生き方をサポートします

<目次>

1. 新年度にあたり “第6期の抱負” 理事長 竹川 忠徳
“新年度を迎えて” 関西支部長 阿賀 敏雄
2. わたしのりらいぶ（その6）“楽しい人生を求めて 海外ロングステイ”
(会員 渡嶋八洲夫)
3. 団塊世代、古き良き少年時代のエコ生活を振り返る（その3）(会員 角谷 三好)
4. 落語会を終えて 「笑う門に福来る」 (小柳 壮一)
5. 演劇はシニアにピッタリの道楽？－10月の2公演を終えて
(会員 鈴木信之) <芸名：信田參平>
6. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」
「大学改革」論議はあきれるほど短絡的です(フリージャーナリスト 國米 家巳三)
7. 重慶日本語事情 その2 (重慶師範大学・日本語学科教師 松木 正)
8. 摘啓 “日本国首相閣下”「恐れながら、重国籍問題について提案があります」
(会員 赤神 潔)
9. りらいぶサロンのご案内 (りらいぶサロン担当日本語教師 鈴木 信之)
10. タイチェンマイ訪問報告 (会員 三原 健三)
11. 初秋のスイスアルプス眺望とハイキングの旅 (会員 渡嶋八洲夫)
12. バリ通信 (会員 平川 龍)
13. バンコク・レポート (山下 雅史)
14. バリ・ロンボク・レポート (11月号) (会員 島村 晴雄)
15. ニュージーランド・クリストチャーチレポート (会員 島村 晴雄)
16. 自費出版図書館便り
17. 事務局からのお知らせ

1. 新年度にあたり “第6期の抱負” 理事長 竹川 忠徳

2012年10月11日、銀座JJK会館で開かれた理事会・総会において、ご案内通りにNPOリタイアメント情報センター第六期計画が承認されました。それに伴い、7つのプロジェクトは夫々のプロジェクト担当理事の下で活動開始。あわせて年間行事も継続的に開催されました。

関東では、毎日ホールにて「カラダが目覚める構造トレーニングセミナー」という講題で、マスコミ話題の人たる3先生にご講演を頂きました。（詳細は次号・・・、尾崎副理事長からの報告をご参照下さい）人間的にも素晴らしい3先生の「困った人を助けたい」という熱意の伝わるお話に、参加者の中から「是非継続して・・・」との声が事務局に多く寄せられています。

従いまして、3先生のご予定次第ですが「カラダが目覚めるプロジェクト」を発足させることも検討中です。即ち、期首の計画にないことであっても、環境の変化に合わせ、良いことはドンドン取り入れていく融通無碍ぶりを發揮する所存です。

一方、関西支部活動では、阿賀支部長より第7回落語会大成功の報告が届いています。三若師匠の長きにわたるお力添えに厚く御礼を申し上げると共に、改めて「継続は力」の大切さを感じております。

このように、夫々の過去の社会生活に於いて、大いに腕を奮ってこられた理事の方々のご指導の下に、色々なプロジェクトが生まれ発展しています。かくも楽しい前向きな当NPOの文化を維持しつつ、皆様の「人生りらいぶ」の場として、一層お役に立てる組織でありたいと願う次第です。

何はともあれ、当該NPOは会員の皆様のご協力があってこそ成り立つものです。日ごろの皆様の温かいご支援に感謝申し上げると共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。



“新年度を迎えて”

関西支部長 阿賀 敏雄

古稀にして支部の活動を通じて笑顔の友達の輪が拡がることは何事にも替えがたい喜びです。今更ながら最初に関西で活動をしてみないかと声を掛けてくださった竹川理事長に感謝致しております。有り難うございました。

支部主催の年2回開催の「りらいぶ落語会」も熊代紘一顧問のお力添えの下に、来春4月19日には桂三若さんデビュー20周年記念としての「第8回りらいぶ落語会」開催予定と順調です。会場が笑顔で溢れる一瞬は最高です。

「TIA(NPO法人国際交流の会とよなか)カフェ・サパナでケーキセット&座談会」を通じてのお国巡りもスタート出来ました。

第1回座談会は7月にネパールのスザンさん、8月はイランのアイリーンさんとお国巡り。9月は幼馴染みのカナダバンクーバー在住の赤神潔君からは貴重な人生経験を拝聴出来ました。今後は11月15日にはブータンのソナムさん、12月20日はTIA理事長の葛西美紗さん、1月17日はガテマラのランディさん、

2月21日は多趣味の木津谷文吾さんを囲んでの座談会…毎月一回開催の予定です。

これも一重に大勢の皆様のご協力ご支援の賜物と心から感謝致しております。

落語会では先ずは達筆な毛筆によるプログラム作成から始まり、名刺広告・チケット販売・会場設営・受付・司会・打ち上げ…と数え切れない方々にボランティアで支えて頂いています。またお国巡り座談会ではTIAさんのご協力無くしてはスタート出来ませんでした。仕上げの三次会もベルウッドさんにお引き受け頂き有り難うございました。



また関西にてもニュース・レターを楽しみにしてくださる方々が徐々に増えています。事務局の労に感謝の気持ちで一杯です。常に何事にも笑顔と感謝の気持ちを大切にして関西支部の活動に励みたく存じます。

何卒宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

1. 私のりらいぶ（その6）“楽しい人生を求めて”（海外ロングステイ）

（会員 元キャメロン会会長 渡嶋 八洲夫 79歳）

（1）海外ロングステイとは

海外に短期間（1～3ヶ月程度）出かけその地で過ごすことを言います。最近では「長期ビザ制度」を設ける国も増えました。その場合は年間を通して現地で生活する人も見られますが移住や永住とは区別します。海外ロングステイの場合生活の基盤、生活費の資源はあくまで日本にあります。高年齢、重度の病気、夫婦の1人が欠ける等の場合日本に帰りたくなりますので、移住や移民はお勧め出来ません。

（2）私のロングステイ

定年後は日本で別荘暮らしを考え軽井沢に土地の手当てをしておりましたが、世界には様々な特徴を持った素晴らしいホテルやコンドミニアムがありその方が生活の選択の幅が広がり、その上別荘管理の煩雑さもなく、別荘を持つことを止め海外ロングステイに決めました。私の希望は第一に夏涼しく、冬暖かい地域です。勿論治安、生活費、対日感情、インフラ、同好会等を考慮10年ほど前、退職を機にロングステイ候補地の選定を始めました。自分の目で確かめるためカナダ、オーストラリア、ニュージーランド、北欧、マレーシアを訪問、検討の結果ニュージーランドとマレーシア（キャメロン ハイランド）に絞りロングステイを楽しんできました。ロングステイ地は1つに揻る必要はありません、複数個所持つことをお勧めします。一旦決めた後も、もっと良い候補地がないか調べることも楽しいことです。最近ダラット（ベトナム）へ調査に行きました。また、来冬はチェンマイ（タイ）へ調査に行くことにしております。



ロングステイ地の選択にあたり大切なことは先ずロングステイの目的をしっかり持つことが必要です。よく「ロングステイで何をするか」との質問を受けますが、ロングステイの目的は各人により異なりますので自分にあった候補地を自分で探すことが必要です。

ロングステイ地を決める場合、必ず現地に赴き下記の事を自分の目で確認した後決めて下さい。

① 治安：

テロ、誘拐、内戦、暴動の発生が見込まれ、又殺人、強盗、窃盗等の多発場所は避けるべきです。外務省の安全情報は常に気に留めて下さい。良い情報源ですので、滞在中情勢が変化した場合は撤退等早い判断が必要です。

② 気候と生活環境：

ロングステイの目的により違いはありますが、一般的には高温・低温地は避けるべきでしょう。温和な気候が好まれます。日本と夏・冬が逆な地域も南半球にはありますので選択幅は広がります。



(トレッキング)

② 生活費

支出が収入を上回るようでは長続きしません。どのくらいのお金がロングステイのために使えるのか十分検討すべきです。

③ 対日感情

マスコミの報道も参考にします。

④ 言語

英語圏でなくても、英語で用がたりる地域が多くあります。現地語が出来ればそれに越したことはありません。難しい交渉をするなら別ですが、平等の立場で誠意を持って接すれば問題ないと思いますので言葉が出来ることは絶対条件ではありません。

⑤ 生活習慣

生活習慣の違いは必ずありますが、「郷に入れば郷に従え」を忘れなければ徐々に慣れてくるものです。

⑥ 食事が合うか

アパート住まいを望む場合は入手可能な食材を調べなくてはなりません。ホテル住まいの場合はレストランでの食事が口に合うか調査が必要です。

⑦ インフラ

銀行・医療・レストラン・ホテル・賃アパートが整っているか調べて下さい。

⑦ ロングステイ同好会への入会

同好会があれば入会をお勧めします。ロングステイの状況を把握できるからです。多くの情報が容易に得られ、その上

友人の輪が広がります。日本人のロングステイヤーが多く

滞在する時期に少なくとも2週間程度は滞在し事前調査をされんことをお勧します。1週間で数箇所回るツアーでは何も判りません。同好会は会員に対し通常①情報の提供 ②各種催事への参加 ③現地市民との交流会等を企画開催しております。

⑧ ホテルかアパートか

料理を作る必要のないホテルは割高ですが、ご婦人には好評です。アパートは借用に限ります、購入は法律の制約、言葉の問題があり避けて下さい。騙されたとの報道も後を絶えません。

アパート借用の場合は必ず自分の目で確かめ他人に任せることでは後悔します。

(3) ロングステイで気をつけること

① 現地人の生活環境の邪魔をしない

現地の人の反感を買わないよう習慣やルールを守ることに心がけます、「郷に入れば郷に従う」ことが必要です。滞在して金を落としているからといった態度は反感を買います。もし日本人が原因で現地の物価が高騰したとすると現地の人が困ります。また法外なチップを渡す人を見受けますが日本人が甘く見られ感心しません、一方けち臭い値切りも如何なものかと思います。3円負けさせたと得意顔する人もいます。常に謙虚な気持ちで行動し我が物顔に振舞うことは避けます。



(ゴルフ)

② 現地への貢献

例えばキャメロン・ハイランドでは町やゴルフ場のゴミ拾いを日本人が自発的に行う様になり当局から感謝されています。環境保護団体への会員登録、寄付、植林にも参加地球温暖化防止と現地の緑化にも貢献しました。スポーツ用具、浴衣の寄付、災害時の寄付も行ってきました。

③ 郷に入っては郷に従え

マレーシアで経験したことですが「マレーシア時間」なるものがあります、時差ではなく会合が始まるのが定刻より遅れる

ことをさします。テニスの親善試合で経験したことですが、

試合開始9時のはずが9時になってやっと食べ物が運びこまれこれで先ず朝食、試合が始まつたのが10時過ぎでした。また夕食会8時開始が大幅に遅れ帰りのタクシーがなくなり慌てたこともありました。時間の遅れにイライラせず此れがマレーシア流と割り切ることが大切です。一方ゴルフ親善試合では8時ティーアップといわれ半信半疑でしたが8時前に全員が揃いました。ゴルフだけはこの国は別らしいのです。またタクシーの迎車時間はきっちり守られます、同じ国民とは思えない一面もあります。救急車を呼んだが先方の連絡が悪く2時間後に来ました、これはほっとけずクレームをつけました。



(女性マージャン教室)

④現地語

挨拶程度は少なくとも現地語でしたいものと思います、道で人に会うと「お早うございます」と現地語で挨拶します、するとしばしば「おはようございます」と日本語で返ってくることはしばしば経験しました。日本語を学ぶ人が増えたからでしょうか、もしかしたら日本人だったかも知れません。



(日馬テニス交流会)

⑤海外旅行保険

病気や怪我に備え保険を必ずかけることをお勧めします。「損害賠償」「傷害治療費」「疾病

治療費」に重点的にそれに日本への帰国治療を考慮して「救援者費用」を必ず掛けます。物価は安くても治療費は高額になることがあります。手術の場合高額の預託金を元気で要求されることが多く一時保険会社が立替ってくれることもあります。緊急事態に備え日本への連絡先をパスポートに明記しましょう。

⑥長期ビザによるロングステイには特に十分な資金の準備を

日本での生活が苦しいからと長期ビザを取得してロングステイをする人を見かけます。各国政府は預託金の増額、日本での収入実績の厳しいチェックをする傾向にあります。資金については余裕を持った計画が必要です。各國とも難民受け入れになる事に神経を尖らせている為です。

(参考文献)

「ロングステイ ガイドブック」 「ロングステイ」

(財) ロングステイ財団編

ダイヤモンド社編

「マレーシアでロングステイ」

株) 立風書房

ダイヤモンド社

ラシン編集部編

イカロス出版

「ロングステイ50都市ランキング」 追加 (R & I)

ラシン編集部編

イカロス出版 ^ ^ 9



(日馬婦人交流会)



(春節)



(植樹ボランティア)

3. 団塊世代、古き良き時代のエコ生活を振り返る（その3）

（会員 角谷 三好）

◇春とともに

2. ドジョウ獲り

雪が粗目状態となって、その上を歩けるようになると春の息吹を感じ始める。それでも、外気の温度はまだまだ厳しく冬であるものの、寒さ知らずで風の子である子供たちは寒い中、

厚手のキルティング等を着込み、長靴履きでバケツとスコップ、鎌、そしてマッチ箱をポケットに忍ばせて出掛けていく。

マッチは特に冬の時期に山の気候が急変し、遭難するような事があると大変なので、いざという時に暖をとったり自分たちの居場所が分かるようにと必ず持っていくのである。雪があるので火が燃えないのではないかと考えたりするが、木に残っている

枯れ枝などを折って、かちった雪の上に空気が通るように重ねて火をつけるとよく燃える。

今日は私を含めて近所の悪がき、3人が集まって学校帰りに約束しての出陣である。行く先は自宅から歩いて約40分、小さな山を越えて谷あいにある「おなた」という地名の付いた田んぼである。この頃、まだ、田んぼは田んぼに水を引き込んで少し溜めて温かくするようにと作られた細長い「せげ」という場所だけが水を張られているために黒々としているものの、後は一面雪に覆われた白銀の世界の中で深閑と静まり返っている。

この「せげ」というのは戸隠のように標高が高く川の水も冷たい寒冷地域で稻作栽培を行うに当たって、収穫量を高めるために農民が考え出した知恵である。

どういうものかというと、水源の小川から田んぼに直接水を引き入れると水が山間部で冷たいために、水が入ってくる周辺の稻の育ちが悪く実入りが少ないものが出来てしまったり、また、小川の砂や石が入ってきて田んぼの稻を埋めてしまったりと、いろんな問題が起きてしまう。

この弊害を改善するために田んぼの端に幅40センチから50センチ程度の水の通り道を作り、田んぼと同じ長さの小川にして水を溜めておき、ほどよい水温になつた時に少しずつ田んぼに水を供給していく。そうすることによって、稻の収穫量も増すのである。当然のことながら、小川から水を引き入れるに当たって小川の砂や石も入ってきて、それが土砂となって堆積する。いつも水を溜めておくのでそこには水草が繁茂していて、そういう場所を住み家としたり隠れ家にしたりする小魚や昆虫、小エビ、タニシ、沢蟹、そしてドジョウ等が格好の場所として住み着いている。今日は雪の上を歩けるようになったので、そこを攻めるのである。



昨年の10月に稻刈りが終わった後、放置されていた「せげ」には水草や雑草が茂って枯れた状態になっており、それが、またそこを住み家としているドジョウ等にとっては格好の安息地となっていた。まずは「せげ」に覆い被さるようになっている枯れた雑草をきれいに鎌で刈り取り、さらに、水中の水草等の障害物を取り除く。わずかに溜まった水の下の土にスコップを深く突き入れて、なるべく多くの土を掬い取る。それを硬くなっている純白の雪の上に置いて、スコップの裏側で壁を塗るように水気を多く含んだ土を伸ばすと、

真っ黒い土の中にいくつもの金色がかかった細長い魚体が出現する。これがドジョウである。水に覆われた土の中では外気よりはるかに温かく冬眠をむさぼっていたドジョウは突然の私たちの襲来になすすべもなく、寒さ厳しい雪の上に放り出されてしまった。

私たちは外気の厳しい寒さのために動くことが出来なくなつて、一本の金色の線となつてゐるドジョウを摘み上げては水を入れたバケツの中へと入れてゆく。1時間もするとバケツの中は、水の中で息を吹き返したドジョウだらけで、大変な大漁である。

この漁は一石三鳥の恵みをもたらしてくれる。一つは1年かかって堆積した「せげ」の土砂を田んぼに返し、水の流れをよくすること、春から秋にかけて繁茂した水草や雑草を取り除き、新しい年の水草等の繁茂を促進させる、そして、最後は蛋白源の不足する冬場に大漁のドジョウが獲れて美味しいドジョウ鍋が食べられること。

ドジョウ獲りの作業が終わつて「せげ」周辺を見ると真っ白いとてつもなく大きい

画布に墨で絵でも描いたように、白と黒のコントラスト、さらに、水草の緑や茶色がそこに加わり、日の光にライトアップされてながら地上絵のようで実に美しい光景が出現した。太陽が東に傾きだすと温度が急に下がり始める。



私たちは大漁に気をよくしながら、深閑と静まり返つた山道を登つて行き家路へと急ぐ。

途中、高台の木立の間から後ろを振り返ると、私たちが描いた地上絵の形がはっきりして、その見事な出来栄えにしばし見とれてしまう。明日になると、日の光によって黒い土周辺が溶けてぼかしを効かしたように、また、違う姿の地上絵になることだろう。こうして、前の土撒きの時にも書いたが、黒い土のところは早く溶けるので微妙に地上絵は姿を変えていくのである。

肌を刺すような冷たい風が帰宅を促すように谷底から吹き上がつてくると、私たちは我に返つて歩を早める。

自宅に着くと3人でそれを平等にバケツに分けて、それぞれが家に持ち帰る。

(この後のドジョウのユニークな食べ方については、次回お届けしたい)

4. 落語会を終えて 「笑う門に福来たる」

(小柳 壮一)

コラムニストの中野翠さんは著書「今夜も落語で眠りたい」の中で、「落語こそ日本文化最大最高の遺産」と言い切つてゐる。そんな素晴らしい文化的芸能である落語を、庶民的料金（前売り1000円）で楽しめるのが、「りらいふ落語会」である。春秋年2回開催され、早くも第7回を数え、高齢者向け落語会として定着した感がある。

大阪府豊中市のホテルアイボリーで10月18日開催された。当日は真夏日から突然肌寒さを感じ、しかも朝から秋雨が散らつく生憎の天氣で、出足も悪かったが開演時の2時にはほぼ満席の入りとなった。演者は第一回から毎回出演のレギュラー桂三若さんと他に若手2名の3名で古典落語と新作落語の組み合わせ。三若さんは

「日本元気大賞」を受賞されたことがうなずける、大きな声とものすごくテンポ良く話されるので、高齢者も自然体で笑いの世界に没頭できるのが嬉しい。今回も時うどん（桂弥太郎）と寝床（桂三若）という何回聴いても面白い古典落語に加え、暴力団が進学塾を経営するという新作物が披露された。

ハさん熊さんという古典落語と違つたユニークな発想のネタが毎回楽しみでもある。私事で恐縮だが、東京に単身赴任していた時、休日の暇つぶしに上野の鈴元演芸場によく落語を聴きに行つた。オチを楽しむ落語と人情噺が多く、最後が来るまで客席は静かで時々笑いを洩らすという感じでした。それに比べると、今回の落語会は笑い放しで、まさに「笑いの花が咲いた」ような会場でした。高齢者が多いということを

演者の方がネタ、話し方に気配りされていることと感謝する次第です。

「なーんでか」で有名な堺すすむの漫談を聴いて、なーんでかの答えをすぐに理解できず、頭脳が少しずつ老化しているのを気付かされるのが、落語のオチも同じで時々皆さんが笑っているのに自分は笑いの意味が分からず取り残されることも度々あるようになってきた。

ランカスター大学のクーパー博士やハーバード大学のパールス博士ら、長寿学の世界的権威が「こうすれば100歳まで生きられる」として10か条を発表している。

その中に

- ①頭を絶えず使う
- ②楽しいこと、趣味に没頭する
- ③常に笑いを忘れないの3項目があるが、

この3つの要素を落語は見事に満たしていると思う。笑うことが病気の予防や治療に有効であり、セロトニンなど体によい物質が笑うと分泌されるなどの学術的研究成果も発表されている。社会全体に閉塞感が漂い殺伐とした事件も多い昨今だが、いつも笑うゆとりだけは持っていたい。あまり難しく考えなくても先人が端的に言ってきた「笑う門には福来る」と。

作：小柳 壮一

<俳句> ○ 秋雨や笑いの花咲く落語会

<川柳> ○ 地震かな笑いに揺れるアイボリー

作：植松 彬

<俳句> ○ 外は秋内は熱気に包まれて嘶家三若笑い途切れず

○ 落語会腹の底から笑い声秋空高く響き伝えて

○ 秋雨どき笑いに満ちる落語会至福のひと時幸せの渦

○ 幸せと共に喜ぶ未知の人落語三昧秋のひととき

○ 奥之院千回極めし貴女(きみ)を見て山の紅葉も染まりて祝う



5. 演劇はシニアにピッタリの道楽？—10月の2公演を終えて (会員 鈴木信之)《芸名：信田參平》

還暦の年齢から明治座アカデミーで俳優修行を1年半重ね、卒業公演をもって修了してから、はや丸3年。卒業後、1年目の2010年に2本の舞台公演、2年目の2011年にも2本の舞台公演、そして3年目の今年は全部で6本の舞台公演に出演することになり、この10月には今年4本目と5本目、通算8本目と9本目の2本の舞台を勤めあげました。

2本の演劇を、この夏場からほぼ同時進行で台詞を覚え、稽古を続けてきましたが、さすがに疲れたあ、というのが今的心境です。

10月7・8日に、板橋区文化センターで出演した「親の顔が見たい＜板橋公演＞」では、子供のいじめがテーマ。自殺した女子中学生をいじめた同級生の鼻持ちならぬ父親役でした。同じく27・28日に北区・志茂のTBスタジオで出演した「華々しき一族」では、有名映画監督役で、複雑な家庭環境のもとで織り成されるややこしい恋愛模様を生む張本人となりました。

これまで、1年目の「海神別荘」では竜宮城に仕える海坊主役、「ドレッサー」ではシェークスピア劇団の老座長役、2年目の「親の顔が見たい」で今回と同じいじめる側の女子中学生の父親役、「グレイクリスマス」では在日韓国人の悪人役、3年目の今年になって「遅しき女々（ひとつ）」でクリーニング屋のやもめ親父役、「喜劇かもめ」では女たらしの医師役、「太陽のあたる場所」では気持ちの悪い建築家、と様々な役をつとめてきました。

演劇をやってきて良かったと思うことの第一は、いろいろな役柄を演じることによって、この年齢になっても「常に人間に興味を持っていられること」だと思います。

更に第二の良い点は、台詞を覚え、演技を習得していくことを繰り返すことによって「適度な緊張感と集中力で、常に脳細胞を活性化できること」です。これはまさに、いつまでも若々しくいられる重要なポイントだと思います。この10月の2本の公演を演出して頂いた文学座の得丸伸二先生に2年前に指摘されたこと、それは「シニアは一度言われたことをなかなか上書き保存できない」ということで、指摘されて以降「なにくそ、そんなことはない」という気持ちで演劇に集中してきました。

良かったことの第三は、「演劇はチームプレーであり、どんな端役の演者もスタッフも存在責任と存在理由があるということ」です。このことを、もっと若い現役時代に十分認識しておきたかったし、今後の残された人生でも、大切にしていきたいことだと思っています。もうひとつ付け加えると「日本語の美しさを再認識できること」でしょう。

さて、私の11月は、いよいよ今年の悼尾を飾り、通算10本目となる明治座本舞台での明治座アートクリエイト特別公演「たった二日のご母堂様」の稽古漬けの毎日となります。この号が発行される頃には、12月1・2日の全3回公演も終了していることと思いますが、精一杯頑張りたいと思っています。本公演で私は初めての時代劇に挑み、「中野硯翁」という幕閣の黒幕的存在の役を演じます。出番は少ないですが、まるで水戸黄門か大岡越前を思わせる、大変美味しい役どころで、勿論、シニアでなければつとまらない役柄です。

今年満65歳を迎えた私の、まさに記念碑的作品とし、来年また、舞台に立つ喜びが沸き立つ芝居になると良いのですが・・・。会員諸兄の応援が身に沁みております。



6. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」

「大学改革」論議はあきれるほど短絡的です

フリージャーナリスト 國米 家巴三

今年は、「大学」がいろいろとにぎやかな話題を提供しています。

といっても、学生が騒いでいるではありません。学生はむしろおとなし過ぎるほどで、問題は大学側の運営に関するものが多い。例えば、少子化にともなう受験生の減少から800近く全国の大学の約4割が定員割れで苦しみ、現実に閉鎖に追い込まれた大学もあります。

また少なくなった受験生を奪い合う大学全入時代を迎えて、学生の学力低下が目立ち大学で中学レベルの補習をするところが増えていますが、この件で世論調査をすると30%の人が補習を支持したとか。学生の学習意欲も衰え、自宅での勉強は1週間で合計1~5時間が平均的。そこで大学で教授が一方的にしゃべる“受け身”スタイルの講義を改め、学生も積極的に発言する参加型のゼミナール方式を拡大したいと文部科学省がいいだし、来年度から260の大学に財政支援をするそうです。

さらに現在の4月入学制度を秋入学に変えたいと東大が提案。大学院では海外からの留学生が全体の18%を占めているのに学部のそれはわずか2%弱。国際化に遅れをとったためと考え、その是正策として外国では一般的な秋入学制に歩調を合わせたいということのようです。

このように大学の当面の問題を並べてみて思うのは、対応があきれるほど短絡的で対症療法的ということ。東大の秋入学案にしても、外から留学生がこないのは東大的学部に魅力がないからです。前半2年の教養課程を東大は自慢しているようですが、学生たちは不満を抱いている。後半の専門課程は実質1年半程度になっており、

「これじゃ、まるで短大」と自嘲の言葉を口にする学生もいるくらい。東大というブランド力の大きさが、これまで何かにつけて欠点をかくしてきたのですが、時の流れがブランド依存の甘い体質を露呈してしまったのでしょうか。

私はかねてから、大学の問題は大学という狭い世界だけみて対処すべきものではなく、小・中学校、高校ともからめた教育制度全体の問題としてとらえねばならないテーマだと考えてきました。教育とは、ひと言でいえば子供の自立を促す活動です。そのまぎれもない目標が日本では曖昧化てしまっている。逆に自立しない方向に引っ張っているような教育が横行していると感じています。遅くとも高校卒業までには、将来自分はどのように生きるか人生の設計図を描けるようになっていなければなりません。そのためには小学生時代から自分をみつめる習慣を身につける。年に2度、自分の長所はなにか、欠点はなにか、作文に書かせるのです。中学生になったら、それをもっと進めて自分の特質はなにか、他人との比較のなかで考えをまとめ、やはり年に2度作文にして提出させる。

高校では、社会をもみつめながら自分の生き方を決断する。論理的に考えを組み立てることができる作文は、他人の目にもふれる可能性があるので、いい加減な人生デザインを発表するわけにはいかない。念をいれて描くことになります。

東大の教養課程の学生が、「18、9歳で人生を決めてしまうのは寂しい」といっていましたが、これこそ“甘ちゃん人間”的典型。ドイツでは10歳でギムナジウム（高校）へいくかアールシューレ（実科学校）へいくか決めています。

いまの日本の教育はひとりひとりの児童生徒の個性を発掘し、自立に向かわせることには無関心。ただ著名な高校や大学へ進むのが目的化していて、目的校に入ったらなにをやっていいのか分からず「5月病」に罹ってしまう。こんな足元のところを抜本的に是正しない限り、大学の真の国際化など実現するはずはないのです。

こくまい・かきぞう 元産経新聞記者・東久留米市在住

7. 重慶日本語事情

2012年11月6日

(重慶師範大学・日本語学科教師 松木 正)

1. 重慶市について

今、私は中国の内陸部・西南に位置する重慶市の大学で日本語教師をしている。2009年2月に赴任して来て以来、早3年半の時間を当地で過ごしたことになる。重慶市は市と言うにはあまりにも広大で、正確には人口約3200万人、面積8万2千キロ、19区17県4自治県を有する中国4番目の直轄市である。かつては四川省に属していたが、三峡ダム建設のからみで四川省から分離独立し、直轄市に格上げされた経緯がある。

2. 重慶の日本語教育事情

(1) 重慶の日本語事情

重慶市の中でも、特に市街地に位置し日本語学科を設置している大学は四川外国语大学(日本語科1学年4クラス)、重慶大学(同2クラス)、西北大学(同2クラス)、我が重慶師範大学(同2クラス)の4校を数える。この中では西南地区の外国语専門学校として伝統を有する四川外国语大学日本語科は老舗と言え、スピーチコンテスト優勝の常連校である。市内には、大学以外にも専門学校や私塾のような形で日本語を教える教育機関がいくつかあり、日本語学習に関する興味と関心の高さが窺える。

(2) スピーチコンテスト

中国における日本語関連のビッグイベントとしては、中国全土で開かれる日本語スピーチコンテストがある。これは日本経済新聞社が主催し、日本の外務省や日本の有力企業数社が後援している大会である。中国全土を8ブロックに分け、毎年5月に地区予選が開催され、各ブロックから上位2校(各校1名)が選抜されて7月に東京で16校の代表が決勝戦を戦うことになっている。重慶市の大学はこのうち、西南地区ブロック(重慶市、四川省やチベット自治区まで含まれる)に所属し地区予選を戦う。今年は28校が参加し、四川外語大と重慶大学の代表2名が選出され、我が校の代表選手は残念ながらあと一歩届かず、3位となった。



(3) 日本語教師連絡会

上記の重慶市に所在する各大学日本語科の日本人教師の連絡会が年に2~3度開催される。これは連絡会というより懇親会あるいは情報交換会と言った方がふさわしく、毎回10前後の日本人教師が出席する。重慶市には又、日本領事館が設置されており、国際交流基金の職員が文化担当副領事として常駐しているので、この連絡会メンバーに毎回ゲストとして参加してもらっている。

3. 尖閣騒動に思う

(1) 中国人民の一般的な認識

石原知事による東京都の尖閣諸島購入案とそれに続く野田総理の国有化宣言に中国政府・人民が猛反発に端を発した中日関係の泥沼化はいまだに尾を引いていて、予定されていた日中国交正常化40周年の記念式典も延期され、再開の目途すら立っていない。一般的中国人にとって尖閣諸島(中国では釣魚島と呼ばれている)は昔から中国の領土と教えられているわけだから、日本が国有化すると発表すれば今すぐで日本軍隊が駐留するのではないかと懸念し、反発が起きるのは当然である。なぜなら日本で報道されているような、日本領土である

正当性を示すような事実経緯や領有権と実効支配についての意味など中国側に都合の悪い報道は一切公表されていないのである。

(2) 身近の反応

普段、私は中国人学生に囲まれて生活しているわけだが、このような政治的な話をする事はない。あえて話題にしないということもあるが、そもそも私の周りの学生たちはこの手の話にあまり興味も関心もないと言った方が正解である。全く何も知らないわけではないが、それより日本のアニメやドラマに対する関心の方がはるかに高い。重慶には自動車部品関係の日系企業が多数あり、テニス仲間の日本人駐在員とも食事などしながら歓談をする機会がある。今回の騒動で仕事上何か支障が出たかと数人に聞いてみたが、みな特にないとの返事であった。先日、高速道路をバスに乗って走っていたら、目の前を赤のホンダ車が勢いよく追い抜いて行った。よく見ると車体後部に“釣魚島是中国的”（釣魚島は中国のモノ）というステッカーが貼ってあった。きっと立派な新車だったので、万一のトラブルに巻き込まれないように予防線を張っていたのか、本当に反日愛国なのかドライバーに聞いてみたい気もした。

(3) 中国はいつまでたっても中国である

先日、こんなこともあった。デパートで新しいテニスラケットを購入し、レジで支払いを済ませようとしたら店員からポイントカードを持っているかと聞かれた。私が「ない」と返事すると、後ろにいたオバちゃんから自分のカードにポイントを押してくれないかと頼まれた。私は別に損をするわけでもないから、「いいよ」と言ってその場を立ち去った。日本では、見ず知らずの人間からいきなりこんなお願いをされることはまずないであろう。中国人に共通している点を挙げるとすれば、イデオロギーなど関係なく、自分の利益を最大化し、常に積極的に人生を送ろうとする人が多いということではないだろうか。



日語科忘年会（2011年）



学生とテニス(2011年)

8. 拝啓 日本国首相閣下 「恐れながら、重国籍問題について提案があります」

ジム 赤神・・・退職農家 ヴァンクーバー市、カナダ在住 (会員 赤神 潔)

「以下は現在カナダ在住の会員 赤神 潔様がご自身の国籍問題について日本政府に重国籍を認めよう本年3月に内閣総理大臣に当てた手紙の内容を要約したものです。」

我々、日本人がカナダの永住権を獲得するには、ある基準以上の有益な資質、資格を有することが前提で、その後、市民権を獲得するには、カナダにとって有益な人間であることを、カナダ国内で3年以上実証して、口頭のテストとインタビューにパスしなければなりません。言い替えれば、試練を乗り越えて市民権を取った人は、二度の関門を通過した、カナダにとって有能かつ有益な人間で、日本にとっても、根性のある国際化の矛先のような人で、カナダで一人堂々と生き残り成功出来得る、極めて有能、且つ有益な人達であります。

国際化の進んだ欧米諸国では、他国籍を取得した自国民をそれなりに評価しています。日本のように他国籍取得者に、個人の意向を無視し、一方的に国が日本国籍の放棄・宣言を強要し、再び日本国籍を取り戻す者に対しては、保有する他国籍を放棄することを強要する現行の法律は、該当する日本人にとっては『固有の権利・資格・誇りの喪失』『固有の出生・出身の証の喪失』となり『人権侵害』であると同時に、国際化、グローバリゼーションが進展する世界の中で日本の将来に重大な足かせとなっています。

私は1972年に29歳で妻と二人の子を連れ米国へ出国し、1973年に自力で永住権を取得。カナダに移住し、40エーカーのミンク飼育場を経営、移住8年目に、世界一のミンクを出荷するまでになりました。ところが移住18年目に、隣接地がゴルフ場の申請を出し、周りの住民・政治家・経済界が全員賛成の所、私が三度目の市の公聴会で生存の為の主張をしてゴルフ場計画を拒否しました。

その公聴会の後にゴルフ場開発業者が心臓麻痺で死んだことから恨まれ、隣接地にマリハナを大量に植えられ、弁護士から『無理矢理難癖をつけられ、土地を取り上げられ、国外追放されないうちに、今直ぐカナダの国籍を取れ』と脅迫されました。その経験から、日本人はカナダで土地を買えますが、カナダ市民と同等に土地を100%実効所有するには、永住権だけの腰掛けではなく、カナダの市民権を取らねばなりません。日本国籍のまま、カナダでカナダ市民と法の上で同等に扱われるには、永住権では不十分で重国籍が必要です。カナダはそれを寛容、前向きに認めていますが、日本国がそれを理不尽に拒否しています。

現在、二重国籍ではカナダの連邦政府の公務員や高度の保安確保の必要な仕事にはつけません。しかし、永住権のみでは、選挙権も被選挙権もありません。無論、日本国内向けに考えると、思想・体制の異なる国家・国民とも巧く付きあうべきで、ある程度の規範は必要ですが、排除するべきではなく、信頼して教育、感化、同化するべきだと思います。それらを感化・同化出来る、より正しく公平・自由な思想の日本国であって欲しいと願います。

我々が究極の生活の手段として他国籍を取ることは、『単なる能力の証』で、むしろ我々在外日本人は、何年経っても日本の私設外交官で、我々が他国籍を取ることは、日本に取つて喜ばしいことではないでしょうか。若き日に世界へわたった、勇気と根性のある日本人達が退職後、日本人として自由に日本へ往復出来るようにすべきで、欧米諸国様に重国籍保有者達がお互いの国同士に増えてこそ、文化がより融和し、利益と富を自然と共有し、相互間の理解が深まり、政治、外交、経済、異種文化活動が『通訳無し』で真に正しく営まれ、歴史を真に共有して協力共生が生まれ、その後『深い信頼関係と眞の仲間意識』が生まれます。自国の重国籍拒否問題は、『国際間人権侵害』である観点からも、早急に『独自に一考』しなければならない重要問題です。

9. りらいぶサロンのご案内



《りらいぶサロン》のご案内

2012年12月～2013年2月期

現役教師の方、これから教師を目指す方へ…

日本語教師でトクする話

目からウロコの日本語教師活用術

——プレゼンター／ファシリテーター にほんご教育コンサルタント・鈴木信之

年齢、性別、出身校、経歴などを超えて、「日本語教師」という共通テーマのもとに情報交流できる場を作りました。現役日本語教師の方も、養成講座などで勉強中の方も、海外で教えたいという方も、ちょっと興味があるという方も、ぜひお気軽に、何度でもご参加ください。

フリートークではプレゼンターへの質問のほか、参加者同士でお互いの経験や進路のこと、教授法、人間関係、その他話し合いたいことなど気軽に情報交換しましょう。

☆☆☆ 2012年12月～2013年2月期の開催 ☆☆☆

2012年12月19日(水)・2013年1月16日(水)

いずれも18～20時

※サロンは17時より開放中。プレゼンターも来所しています。

●場所 R&I りらいぶサロン

(東京都中央区日本橋蛎殻町2-13-5 美濃友ビル3F(自費出版図書館内) TEL 03-3668-8005)
* 東京メトロ半蔵門線「水天宮前」駅(5番口)徒歩1分、日比谷線「人形町」駅(A1番口)
徒歩5分、都営浅草線「人形町」駅(A3番口)徒歩7分

●参加費 500円(サロン運営費としてご協力ください)

*** 《りらいぶサロン》とは *****
自分自身の「生きがい」や「やりがい」を考え始めた人々、あるいは退職・離職などで新たな自分の人生の充実を目指す方が共に集まり、共に考え、共に刺激しあい、それぞれが新たな行動を開始する——。そんなクリエイティブなきっかけづくりの場を提供します。主に退職前後の方を対象に情報提供を行うNPO法人リタイアメント情報センター(R&I)が運営しています。

●お問い合わせ・参加申し込みは…

NPO法人リタイアメント情報センター(R&I)《りらいぶサロン》(担当:鈴木、佐野)

TEL 03-3668-8005(月・水・金12～17時とサロン当日のみ)

FAX 03-5643-7346 ⇒ 氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

E-mail appli@retire-info.org ⇒ 氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

■R&I事務局本部 ■〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14-4F <http://retire-info.org>

◎《りらいぶサロン》利用者規約

- ・ご利用の際はサロン運営費として毎回一人500円をご負担ください。
- ・他の利用者の迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。
- ・サロン利用時間内に限り、酒類を除き、ペットボトル・缶飲料の持ち込みは可能です。ただし、空きボトルなどは各自お持ち帰りください。食事はご遠慮ください。
- ・許可なくサロン内でのビジネス勧誘、商品販売などの営業活動はご遠慮ください。
- ・サロンは図書館内です。飲食しながらの図書館蔵書の閲覧は禁止します。

10. タイチェンマイ訪問報告

(会員 三原 健三)

9月8日から16日までタイ国チェンマイ市を訪問しました。今回の訪問目的はNPO法人・タイセカンドライフ健康サポート協会（東京神田）のタイにおける活動拠点であるチェンマイ市に財団法人の認可を受けその発足披露会にJTASHの代表としてまたR&Iのメンバーとして参加してきました。日本総領事様をはじめ、日本人会、ロングステイ各団体、山岳民族施設関係者、商工会議所、旅行社、マスコミ関係者など総勢100名近くの出席を賜り盛大に行われました。

財団の活動目的は大きく分けて二つのミッションを掲げています。ひとつはロングステイヤーに健康で安心して暮らせるための支援活動、現在タイ北部の県で登録者数だけで3,723人在住、そのうち半数以上が50歳以上です。その数は近来うなぎ上りに増加しています。特に60歳以上はこの8年で5-8倍増えています。具体的な活動内容については、各種公的手続きサポート、パソコン・そろばん教室、日本料理を楽しむ会、パークゴルフ（タイでははじめての試み）、健康食の宅配サービスなどロングステイヤー、高齢者へのボランティア活動。

もうひとつの社会福祉活動です。今回はサンファンサンティーパープ財団が支援するカレン山岳民族の生徒寮を訪問してきました。タイには公式としては現在90万人以上の山岳民族が住んでいます。その中でも最大のグループで文化人類学者である山本女史が著書で「美しきカレン」で日本に紹介され馴染みがあると思います、施設はチェンマイ市より北西65キロのガメーン村にその土地出身のタイ人の奥さんと共に山本敏幸氏がボランティアとして世話をされております。昔は山岳民族とタイ人と住み分けがハッキリと分かれて夫々何の問題もなく暮らしていましたが近代特にベトナム戦争以降政治経済の波が押し寄せて色々な問題が起こってきました。その結果として子女の都市への教育と就職の為の移動と共に家庭崩壊が始まりました。三十歳台以上の山岳民族の男女は教育を受けていない、またタイ国籍さえ保持していない人も多く、タイ人同等の扱いをされていないのが現実です。

教育を受ければ山岳民族の子らに将来の自分の夢を実現させる機会は充分あります。カレン族の中でも最も貧しく、家庭内で虐待を受けたり、家庭崩壊になっている子らを引き取り、衣食住と教育を与えてるのがサンファンサンティーパープ財団のサンファン寮プロジェクトです。海拔750Mに位置し地元出身のタイ人である妻ブンナムさんの土地を自分たちの手で開墾し寮を建てました。現在は21名の寮生（2歳児から19歳）と実子2名職員1名と夫婦の計26名が共同生活をしています。彼らは家畜の世話をしたり、週末には彫刻教室や機織とかぼうき作りや民芸品を作ったりしています。まだタイ国内では知名度は低くタイ人から寄付も微々たるものであります。

山本氏が海外からの支援に頼らざるを得ない状況であるのが現実のようです。山本氏夫婦の献身振りには涙することしきりでしたが、今回はわずかばかりですがNPOより



1万バーツと食料品、筆記用具、中古デジカメなどを寄付してきましたが、継続的な支援が彼らにとって必要だと痛感しました。子供たちが学校を卒業してもなかなか就職口がないのが現実のようで、NPOにて奨学資金制度のようなものを創案し中学高校を卒業後に介護看護学校で勉強しその後、介護が必要とされる人々や障害者に対して介護士としての職の道を開いてやる事もまた日本よりもグローバルな体制になれば日本での介護をする機会も夢ではないと思っています。次回はチェンマイ近郊の赤子預かり施設を



訪問しその報告をしたいとおもいます。この施設はゼロ歳児か2-3歳児までの赤ちゃんを育てている施設で、若くして13-4歳の女子が自分の子供を育てられず、子供を生み捨て同然の赤ちゃんを引き取りボランティアとして育てている施設です。

R&Iの会員のメンバーさんにゴルフや観光目的のツアー以外にこういった施設へ関心のある方への体験ツアーを将来企画したく思っております。

11. 初秋のスイスアルプス眺望とハイキングの旅

(会員 渡嶋ハ洲夫)

9月下旬から10月初旬に掛けて10日間の秋のスイスの旅に参加した。小生が勤めた会社の山岳部OBを中心の総勢21名(内女性11名)の大部隊、ほとんどが65歳を超えたシニアである。従って幹事はシニアに無理のない日程を組んでくれた。目的はスイスアルプス眺望とハイキングである。

フランスに近いジュネーブ(1泊)、イタリアに近いサースフェー(4泊)、ミューレン(3泊)に滞在した。スイスはロープウェイ、ケーブル、ゴンドラリフト、バス、登山鉄道、列車等の公共交通機関が全土に張り巡らされており、運行時刻も正確だ、旅行者にはありがたい。100年前山をくり貫きトップオブヨーロッパまでのユングフラウ鉄道を苦闘の未完成させたユングフラウ鉄道にも乗った。

宿泊したサースフェー並びにミューレンからアイガーやマッターホルンまで往復するのもこれらの交通機関を乗り継げば容易である。但し料金は高いので様々なバスや割引カード(スイスパス、スイスフレキシーパス、スイス半額カード等)を上手く組み合わせて利用でき出費を節約してもらった。

1、ジュネーブ

ジュネーブはスイスに着いた初日に滞在、翌早朝旧市街を散策後サースフェーまで移動した。ローザンヌまでジュネーブから電車を利用、モントールまで定期遊覧船に乗る。モントールから電車でブリーグまで、

バスに乗り換えサースフェーに着く。バスを降りホテルまで小さな電気自動車に乗る。環境保護のため電気自動車以外は村には入れない。途上ローザンヌ教会では階段を登り市内を眺めた。またレマン湖を船で渡りシヨン城に立ち寄った。

2、サースフェー(標高1798m)

氷河の村サースフェーは周囲を13もの4000m級の山々で囲われ、今にも押しつぶされそうだ。フェー氷河の末端は村の目の前まで来ている。ここからケーブルとゴンドラで色々な方面に行ける。建築物には切妻屋根であること正面の1/3は木材で作ることが義務づけられているので街並は美しい、それに外壁の色も統一されている。これぞスイスを感じる静かな村だ。ホテルは4ツ星のMETROPOL GRANG HOTELに4泊した。旅の楽しみの1つに食事がある、此処もミューレンのホテル同様朝食と夕食付であった。朝食は飲み物、生野菜、果物、ハム、ソーセージ、チーズ、卵料理それに数種類のパンのバイキング方式。ある日の晩餐のメニューを紹介すると、*季節のサラダ*イタリアンパスタ*セロリーのクリームスープ*ローストポーク マッシュポテト・人参添え*3種類のシャーベット。地元のビール・ワインを飲みながらその日の楽しかったことなど夜が更けるまで歓談した。



①ハンニック展望台（2340m）

ホテル近くの駅からゴンドラに乗って10分でハンニック（2340m）に着く。レストランで眺望を楽しみ、いよいよスイスアルプスでのハイキングの幕開けだ。

標高差550mを2時間かけて村まで歩く。東から南にかけ双耳峰ドム（4545m・スイス2位）を中心とするミシャベル連峰、アルプフーベル（4206m）、山麓に向かうフェー氷河は素晴らしい。トゥレンバッハ川を越え、ジグザクの尾根道まではなだらかな下りだが足元は悪い、森を抜けると牧草地になり歩きやすくなる。

お花畠は時期的にみられなかつたが周囲の山々の壮大な景色に感激した。



②ミッテルアラリン展望台（3500m）

ゴンドラとケーブルを乗り継いでアラリンホルン（4027m）直下のミッテルアラリン展望台へ。

展望台から見るタッシュホルン（4491m）、ドム・レンツシュピッツエ（4294m）、ナーデルホルン（4327m）の大パノラマは圧巻だった。フェー氷河上部にはスキーヤーの姿も見られた。

③シュピーボーデン展望台（2448m）

テレキャビンでシュルボーデンへ、ゴンドラに乗り換えシュピルボーデン展望台に着く。マーモットの生息地。此処からタッシュホルン（4491m）を仰ぎ見ながらのハイキング。道はジグザグに曲がっておりゆるい勾配で植物はない、後半カラマツ林を抜け、サースフェーまで草原を歩く。3時間30分、標高差650mで可なりきついハイキングだったと参加した仲間から聞いた。私にはこのコースは無理と思い歩くことは諦めゴンドラとテレキャビンを

乗り継ぎ村まで帰ってきた。



④マッターホルン・グレッシャー・パラダイス（3883m）

サースフェーからバスでスタルデンへ、電車に乗り換えツエルマット駅、そこから電気タクシーに乗ってゴンドラの駅に着く。ゴンドラで40分展望台に着く。この展望台はスイスアルプスでは最高所にある。生憎雲がかかりマッターホルンを展望台から見ることは出来なかった。外は風も強く、雨（雪）が頬をたたき痛い。マッターホルン博物館見学や土産物店に立ち寄りながらゴンドラ駅から歩く。後髪を引かれ何度も振り返るが山は顔を見せない、残念だが致し方ない。

3、ミューレン（1645m）

サースフェーからバスでブリーク、電車に乗り換えスピーツ、さらに電車に乗り換えインターラーゲン・オスト、登山電車でラウターブルネン、最後はケーブル/登山電車でミューレンにやっと着く。

崖っぷちに佇む静かな村、ホテルの部屋から正面にアイガーの雄姿が大きく見える。ホテルは4ツ星 HOTEL EIGER に

3泊した。



①シルトホルン展望台（2970m）、ラウターブルネン渓谷、トリュンメルバッハ滝

ミューレンからロープウェイで17分と近い距離にある。生憎当日は雨でほとんど視界が利かず展望台に画かれた地図によればアイガー（3970m）、メンヒ（4107m）、ユングフラ

ウ（4158m）の3連峰が遠く望め、ブライトホルン（3782m）ブリュムリスアルプ連峰（3664m）など360度の大パノラマ広がっているとのこと残念だった。ロープウェーでラウターブルネン渓谷まで降りた。氷河に削られて出来たU谷は高さ300mもの断崖が村の両側に迫り氷河のすさまじさに感動した。パラグライダーが次々に断崖に沿って降り来る気流の状態が良いのだろうか。沢山の滝が断崖から流れている。その中でトリュンメルバッハの滝は岩の中を流れおり、見学者は入場料を払って岩の中の流れに沿った見学道路を登りながら見学した。

②ユングフラウヨッホ展望台（3454m）

当日は2000mまでは雲があるがその上は晴れとの監視カメラからの映像を見てホテルを出発した。ウェンゲン経由クライネ・シャイデックへ電車は登り、2000mの雲をつきぬけた時は青空と美しい山々の姿が現われ、瞬間車内に歓声がこだました。クライネ・シャイデックでユングフラウ鉄道に乗り換え終点を目指した。最後の10km近くはトンネルであり、途中下車して岩盤をくりぬいた窓からアイガー北壁を身近に見た、垂直でしかも反り返っている、よくこんなところを登るのかと感心した。ユングフラウヨッホの展望台ではアイガ、メンヒ、ユングフラウの4000m級の山が目前に迫る。360度見渡すと此処にも美しい山々が目に入る。大きなアレッチ氷河が広がる。氷河をくり貫いて作られたアイスパレスでは氷の道を歩き、氷の部屋に飾られた氷の彫刻を鑑賞した。



③アルメントフーベル展望台（1907m）

ホテル近くの駅からゴンドラでアルメントフーベルへ行きそのままミューレンの村まで景色を楽しみながらハイキング。夏は美しい花畠が広がるがこの時期は花は少なかった。1時間で降りてこれるが、暖かい日をあびながら途中昼食を取りゆっくり村まで降りた。

④メンリッヒエン（2225m）

ウェンゲン経由ゴンドラでメンリッヒエンまで行き、此処からアイガー北壁をほぼ正面にみながら平坦な道を下りクライネ・シャイデック（2061m）まで90分のハイキングを楽しんだ。地元の人にも親しまれており、展望も素晴らしい沢山のハイカーと途中会った。

⑤演奏会・感謝

帰国前日の夕刻同行の廣井敬三氏がハーモニカ演奏を披露、アリア、アベマリア等心地よい音色に心癒された。更に晚餐会の席上地元ミューレンの民族衣装を着けた2人の女性がヨーデルを披露。又アルプホルンには数人が挑戦したが中々吹けずに皆苦戦した。最後に全員でエーデルワイスを合唱、忘れがたい思い出の一つになった。親切な、サービス精神に富んだ、笑顔を忘れない、人懐こいイスの人々、感動を与えてくれた美しい国イス、それとお世話をしてくださった幹事の池田守男氏、越島英明氏に感謝しつつ楽しかったイス旅行を胸に帰国の途についた。後日同行した上田正勝氏からは本稿の為写真の提供とアドバイスを頂いたお礼申し上げる。次回は花の季節の再訪を夢見ている。



バリ コミュニケーション

<http://www3.ocn.ne.jp/~bali/>

第91号
2012年10月発行
PT. Care Resort Bali



デンパサール国際空港が大規模リニューアル！



工事中のため、空港内外の至るところに防護壁が。



デンパサール国際空港の完成予想図

バリ島のデンパサール国際空港（ン・グラライ空港）では現在大規模な拡張工事が行われています。2013年に予定されているAPEC（アジア太平洋経済協力）会議に間に合うように進められており、来年中頃の完成予定ということです。空港拡張により、年間2000万人の旅客に対応（2011年の旅客数は1100万人）が可能で、より国際空港としての役割を担うことになるでしょう。近代的な波形の屋根が印象的ですが、実物が見られるのももうすぐです。



ちょっと拝見。ケアリゾートバリでのお食事風景

★果物の王様を囲んで、ドリアンパーティ

バリの人でもニオイが苦手と嫌う人がいるドリアン。果物の王様とも言われますが、ケアリゾートバリのお客様は割合この「王様」を好む方が多いです。少し遠慮気味にコテージで召し上がる方もいらっしゃいますが、今年は堂々とレストランでドリアンパーティを開かれたお客様方がいらっしゃいます。ニオイも何のそので、思いっきりドリアンを堪能でき、満足のご様子でした。



みんなで食べれば怖くない。ドリアンに舌鼓！

バリではスーパーでも買えますが、道端で売っているところも。1つ約500円で買えます。

★とっておきの家庭料理、エビフライ

定住でお住まいのご夫婦のお宅へお食事のご招待を受けたお客様。メニューはこんなおいしそうなエビフライで、大感激でした。つけ合わせの野菜は庭で育てたトマトにキュウリ、キャベツ、ピーマン。エビさえ調達すれば、野菜は自給で、栄養満点の一皿に。温かい家庭料理をご馳走になり、気持ちもほっこり温かくなりました。

温かい家庭料理がイチバン！



◆当記事に関するご意見、お問い合わせは、編集担当の瀬和までお願いします。E-mail : ksewa@pastel.ocn.ne.jp
PT. Care Resort Bali(東京連絡所)〒160-0023 新宿区西新宿8-14-17-303 TEL&FAX:03-5330-5345



13. <バンコク・レポート>

(山下 雅史)

日タイ・ロングステイ・ネットワーク (LJT)をお引き立て頂きありがとうございます。

「LJTニュース」Vo1.9 を配信いたします。

<トピックス>

- ① 2013年新春「タイ下見・体験滞在（バンコク、チェンマイ）」のご案内。
- ② 2013年新春「タイでゆったりゴルフ三昧（バンコク、チェンマイ）」のご案内。
- ③ 2012年10月に開催した「タイ下見・体験滞在バンコク」のご紹介。
- ④ 会員様のご紹介。下見参加の市田様ご夫妻。ロングステイを開始された松浦様。
- ⑤ 「ロングステイフェア2012」に9,452名の方が来場されました。

① 2013年新春イベント、「タイ下見・体験滞在（バンコクおよびチェンマイ）」のご案内。

今年も多くの方にご参加いただいた、「タイ下見・体験滞在」を新春に行います。

今回はバンコクコースに加えチェンマイコースも開催いたします。

日時：2013年1月28日（月）～2月1日（金）4泊5日機中1泊（バンコクコース）

2013年2月4日（月）～2月8日（金）4泊5日機中1泊（チェンマイコース）

[詳細はこちらをクリック！！](#)

② 2013年新春イベント、「タイでゆったりゴルフ三昧（バンコクおよびチェンマイ）」のご案内。

ゴルフ天国タイ。リタイアメントシニアのゴルフ懇親会を2013年も開催いたします。

開催期間は上記「下見・体験滞在」と同じで、ご参加の会員様の懇親も目的にしています。

日時：2013年1月28日（月）～2月1日（金）4泊5日機中1泊（バンコクコース）

2013年2月4日（月）～2月8日（金）4泊5日機中1泊（チェンマイコース）

[詳細はこちらをクリック！！](#)

③ 先般、10月に開催された「バンコク下見・体験滞在」の様子をご紹介します。

10月23日～4泊5日で行われた恒例のバンコク下見・体験滞在には5名の方が参加されました。今回は開始以来最年長の81歳の男性も参加され、身体のお元気な事に加えそのチャレンジ精神に一同勇気をいただきました。[詳細はこちらをクリック！！](#)

④ 当会員様のご紹介。

下見・体験滞在ご参加の市田様ご夫妻の感想と、今年保険会社を定年退職され11月1日よりサービスアパートでロングステイを開始された松浦様。[詳細を見る！！](#)

⑤ 11月17日（土）のロングステイフェアに9,452名の方が参加。

日本最大のロングステイフェアが東京ビックサイトで開催され、1日で9,452名の方が参加されました。LJT代表の山下もタイ国政府観光庁のブースでロングステイ相談を担当しました。これからロングステイの1から検討したいと言うリタイアメントシニアが多いのが特徴でした。

（追伸）

タイ国への渡航客が急増しており、航空券が取りにくい現象が出始めております。

下見・体験へご参加の方も含めチケットの手配はお早めに！。

国際航空の正規割引チケットはタイ国際航空正規代理店（株）産経旅行まで。

担当者 ナルモン（日本語・タイ語） / 江草

日タイ・ロングステイ・ネットワーク会員様の窓口

Eメール：<mailto:ofo@sankeitourist.co.jp> TEL:03(3562)4001

日タイ・ロングステイ・ネットワーク (LJT)、日タイ・ビジネス・ネットワーク (BJT)

<http://thai-longstay.jp/> 代表 山下 雅史

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-14-17 アルテール新宿303

TEL 03-6905-8711 FAX 03-3974-2194 タイ国内携帯番号 089-963-0678



14. バリ・ロンボク レポート（11月号）（会員 島村晴雄）

バリ&ロンボク・レポート

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/>

第33号 2012年11月発行



今回はバリからのレポートです。 インドネシア・バリは世界中から多くの観光客が訪れる南国のリゾート地として開けていますが、沢山のヒンドゥー文化とも接せられる場所です。

この中で、今回はバリ伝統芸能であるバリ舞踊を少しご紹介させていただきます。

もともとバリ伝統芸能は、宗教や儀礼に結びついたものが多いのですが、観光客用に余興として見せていくるバリ・バリアン（バリ語で「余興」）が有名です。

この中でバリ舞踊として観光客を楽しませているバロン・ダンスとケチャ・ダンスは特に有名です。

どちらも上演時間は1時間半程度でバロン・ダンスは昼夜上演していますが、ケチャ・ダンスは劇の中で火を使う所があり、主に夕刻から夜に掛けて行われますので、観劇鑑賞がお好きな方は一日で両方のダンスを観ることができます。



劇の前に行われるバロンの踊り
善、生、聖の象徴バロン

バロン・ダンスの終了近くの場面
サデワ王子と死神弟子カレカとの戦い

入場料はどちらも海外観光客で一人当たり約10万ルピア（現在¥1=約 Rp.120 で、約¥840）です。
会場はデンパサール市周辺等のいくつかの場所で毎日行われています。



上は何れもケチャ・ダンスの場面

バロン・ダンスは、“ガメラン”というバリ島独特の楽器を使用して行われる踊りです。この踊りは、人の心の中にある善と悪の戦いを物語っており、戦いの結果は善悪両者とも生き残る（この世には善悪が永久に存在する）と言った内容です。踊りに登場するバロンという動物は良い魂を、又ランダという動物は悪い魂を演じています。

次にケチャ・ダンスですが、この舞踊劇は1930年代にバリで活動していた画家のウォルター・スピースや他の西洋人芸術家たちの助言によって創作された舞踊劇です。

ケチャは少女がトランスして踊るサンヒヤン・ドウダリ（神が踊り手に憑依して目をつむったままトランス状態での踊り）で、男たちの合唱をバックにしてラーマーヤナの物語を基に舞踊劇が展開されています。



サンヒヤン・ドウダリ
疫病流行等を祓うために踊られた

どちらも少し物語が難解なので、事前に関連情報を取得したりして、前もって準備していくと、それなりに楽しめるかと思います。

バリにお越しの際は、一度はこれらの舞踊劇をご堪能願います。

マリーン・スポーツが満喫できるギリ・メノに一度はお越しください
& Casablanca

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/> Casablanca のお問い合わせは、
shimain@r4.dion.ne.jp ^



15. ニュージーランド・クライストチャーチレポート

(会員 島村晴雄)

NZ・クライストチャーチ レポート

<http://www.ccc.govt.nz/>

2012年11月発行・特別号その8

今回はクライストチャーチから南西少し離れた観光地テカポ湖をご紹介します。

ニュージーランド(以降NZ)南島への日本からの観光ツアーでは必ず訪問する場所で、クライストチャーチから南西へ約226km程度離れており、車やバス利用をして片道約3時間程度で行ける所で、クライストチャーチから日帰りも可能です。

リタイアメントの筆者も昨年クライストチャーチに長期滞在した時に一度トライしましたが、日帰りではやはり多少疲れましたので、最低でも1日は滞在することをお薦めします。

テカポ湖は、南アルプス山脈に水源をもつゴッドレー川から水が供給されていますが、湖水には氷河が削



テカポ湖から南アルプス山脈を望む



春はルビナスが湖畔に沢山咲く
NZではルーピンと呼ばれる

った岩石の粉が一緒に溶け込んでおり、湖は幻想的な青緑色をしています。遠くには雪を頂いた南アルプス山脈が湖面に映り、大自然の光景に本当に感動を憶えます。海拔は約700mです。



湖畔にある善き羊飼いの教会と
教会内からテカポ湖を望む



高原の大平原にあるゴルフ場

Balmoral Links Tekapo
3番&12番ミドル・ホール

また、NZのガイドブックでもお馴染みで有名な“善き羊飼いの教会”があります。ツアーで行くと昼食タイム等で約1時間程度の滞在で、すぐに宿泊地のクインズタウン方面に移動してしまいますが、長期に滞在している人には数日滞在し、近くにある温泉に入ったり、町経営のゴルフ場でプレーをされるのも楽しいかと思います。

“善き羊飼いの教会”は、クライストチャーチの建築家 R.S.D.ハーマンによって設計、1935年に建築された教会で、美しい湖と南アルプスの山々の眺めを枠に収める祭壇の窓がその特色となっています。

小さいテカポの町には、リゾート・ホテルやホリディ・ハウスも幾つかありゆっくりとテカポ湖周辺を散策することもお薦めです。

勿論、南半球の冬の時期には、近くに多くのスキー場もあり、ウィンター・スポーツも沢山楽しめます。

また春から秋に掛けては、町から10分程度離れた場所に9ホールのゴルフ場 Balmoral Links Tekapo もあり、セルフプレーですが1ラウンド(9ホールを2回廻る)NZ\$15です。日本円では約千円前後です。

但し、田舎のゴルフ場なので、前もってクラブ等の準備は必要です。

NZは本当に素晴らしいのですが、常夏のインドネシアにも是非お越しください。マリーン・スポーツが満喫できるギリ・メノに一度はお越しください
& Casablanca。

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/> **Casablanca** のお問い合わせは、shimaint@r4.dion.ne.jp ^



16. 自費出版図書館便り

＜自費出版は、リタイアメント情報センターの活動プロジェクトの1つとして、自費出版される方々を始め会員の消費者保護を目的として、活動している主要なプロジェクトのひとつです。また、自費出版図書館は自費出版された書籍を豊富に蔵書する図書館であり、リタイアメント情報センターの法人会員でもあります。＞

2012年10～11月に、自費出版図書館に寄贈された図書の一部をご紹介します。



『市松人形 超短編小説六十篇』伊藤光子著
婦人公論女流新人賞などの受賞歴を持つ著者がしたためた1編800字程度の短編小説。断食して穏やかな死を望む老女を描いた「桜はまだか」ほか、戦時中の女性をテーマとした短編など、「短説の会」関西座会で発表した作品から加筆しました。



『植木屋ヒロシのひとり言』畠田浩著（牧歌舎）1,000円+税
植木職人である著者が日々の仕事で自然や文化、人とのかかわりに触れ、湧き上がる言葉をつづった詩集。



『大地の絆』中島史子著（東京創作出版）
著者が母との思い出話をしたためた手紙をもとにまとめた自分史。母、父、弟、夫、娘、孫、そして縁のあった人々との絆を感謝をこめて振り返る。



『そしてみんなひとつに溶けてしまえばいい。』海砂南夏著
640円+税 「君」を思う恋心をうたった詩集。



『発香鱗 日本産モンシロチョウ属』藤森信一著（郁朋社）
チョウに見せられた著者がスジグロシロチョウ、ヤマトスジグロシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、モンシロチョウ、タイワンモンシロチョウ、オオモンシロチョウの発香鱗の形態、斑紋について膨大なデータ、カラー写真によって季節変異、雌雄、変異幅、区別点など詳細に解説。



『ある学徒士官の出陣便り一検閱をパスした両親との文通集』荒川一郎編
昭和18年12月10日、敗戦の色濃い戦線に軍人として狩り出された著者と、両親との間で交わされたはがきの文面をそのまま収録。当時の時代背景うかがい知れる記録。

自費出版図書館では自費出版図書を蒐集しています。自作品のほか、お手元にご友人・知人の作品がございましたら、当図書館までお送りください。



自費出版図書館

- 開館日・時間 月・水・金曜日 12:00~17:00 ※ただし祝祭日、年末年始、お盆は休館。その他、催し物などで開館時間の変更または休館の場合があります。
- 入館無料／貸し出しありません。コピーサービスあり（1枚50円）
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町2-13-5 美濃友ビル3F
TEL 03-5643-7341 FAX 03-5643-7346
Eメール library@ke.main.jp ホームページ <http://library.main.jp>

17. 事務局からのお知らせ

- リタイアメントジャーナルニュースレター版も漸く1年を経過し、今年度は更に紙面の充実を図ってゆきたいと考えております。皆様からのご寄稿、ご投稿をお持ちしております。
- 10月21日（日）に東京毎日ホールで開催した『カラダが目覚める構造トレーニングセミナー』は、皆様のお陰を持ちまして50名を越える参加者があり盛況裡に開催することができました。今後ともこれらのセミナーを継続して開催してゆきたいと考えております。
- 関西支部恒例の落語会につきましては10月18日（木）に盛大に開催され、180名の方々が参加されました。
次回第8回は来年4月19日に予定しております。
- 現在当法人のHP更新を計画しており、より見やすい、親しみやすいコンテンツを皆様にご覧いただけるよう検討しております。具体化しましたら本紙面でお知らせする予定です。



発行 特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）
〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 芝栄太樓ビル 4F VIPシステム内
TEL 03-5733-2311 FAX 03-5733-3532
e-Mail: info@retire.org ホームページ: <http://retire-info.org/>
リタイアメントジャーナル: <http://retirement.jp/> 発行責任者 豊口 一美